

CSV報告書 2021

KEIWA Incorporated CSV REPORT 2021





目次

1	トップメッセージ	P.3
2	会社概要 経営理念／経営ビジョン／恵和バリュー／経営戦略／恵和のコア・コンピタンス／会社沿革	P.7
3	恵和の現状把握 重要テーマの特定	P.16
4	CSV目標 『恵和2030』に向けた戦略的指針／6つの重要テーマへの取組み	P.17
5	組織力向上 AKI活動	P.19
6	目標達成に向けた支援 教育支援体制	P.21
7	CSV活動 ①新しい価値の創造／②高品質の提供／③安定供給、安定調達／④ガバナンス／ ⑤環境汚染防止、環境負荷低減／⑥労働安全衛生	P.24
8	活動実績評価 マネジメントシステム監査	P.42





1 トップメッセージ

“プライム”上場企業の名に恥じぬよう、
引き続き CSV^{※1}グループとしての社会的責任を
果たしてまいります。

※1 CSV:Creating Shared Value

“Withコロナ”の世の中で重みが増した、恵和の使命

2021年も、世界は新型コロナウイルス感染症の影響を受け続けました。そんな状況のなかで、7月からは1年遅れの東京オリンピック・パラリンピックが無事開催され、世界中にたくさんの感動を提供してくれたのも記憶に新しいところです。その後、国内ではワクチン接種の進捗に伴って新規感染者数は劇的に減少しましたが、新たな変異株の登場とともに再び大規模な感染拡大が起こり、その状況は未だに終息しておりません。

とはいえ、足元の状況は以前とは少々異なっております。世界各国の対応を見ておりましても、いたずらに経済活動を制限するのではなく、テレワークの継続やワクチン、治療薬といった武器をうまく組み合わせながら、感染状況のある程度のレベルで抑えつつ“Withコロナ”での日常を取り戻すことを指向しているように思います。

このような状況のもとで、2021年の恵和の業績は大幅な増収増益を実現することができました。これはひとえにお客様や株主の皆様、取引先各位のご支持、ご指導、ご協力、また当社従業員の努力の賜物であるということは申すまでもありません。





1 トップメッセージ

なかでも業績を大きく牽引致しましたのは、複合拡散板『オパスキ®』と光拡散フィルム『オパルス®』という、液晶ディスプレイに不可欠な光学フィルムであります。『オパスキ®』は、最近急速に普及し始めている「直下型ミニLED液晶ディスプレイ」に、『オパルス®』は従来型の「エッジライト型液晶ディスプレイ」に使用されますが、どちらもノートPCやタブレット端末などの用途の伸びが顕著でありました。

これは、リモートワークやリモートラーニングが広く普及したことに加えて、人々がそのために少しでも画質の良い端末を求めているということの表れだと思えます。“Withコロナで経済活動を回す”ためには、ノートPCやタブレット端末のような情報機器の普及と高性能化が不可欠です。恵和が最も得意とする光学フィルムの領域でそのお役に立てたということは、1948年の創業以来ずっと大切にしてきた「企業活動自体が社会貢献を伴う」という在り方の実践であり大いに喜ぶべきことではあります。その責任の重さを思うとき、改めて身の引き締まる思いが致します。

『CSV報告書』初の年次更新で、具体的な目標を設定

さて、いわゆる「CSR報告書」や「統合報告書」に類するものとして、当社がはじめての『CSV報告書』を発信してから、ちょうど1年が経ちました。初めての経験だったものですから、私のメッセージも恵和創業以来の歴史を辿りながら「SDGs」を先取りするような形で行ってきた企業活動の紹介が中心でしたし、本編の内容についても、「恵和がどのようなCSV活動をしているのか」を紹介することに力点を置いたものとなっております。

今回は、初めての年次改訂版の発信、ということになります。この1年の環境の変化を反映して重要テーマを再選定したり、前回掲げたアクションの結果がどうなったのかを報告したりといった、2年目ならではの内容が盛り込まれているのはもちろんのこと、選定した重要テーマに基いて、“2030年に恵和がどうなっていきたいのか”という具体的なあるべき姿を設定するなど、より内容が充実したものになったと自負しております。

特筆すべきは、2030年のCO₂排出量を、2013年との比較で46%以上削減する※2という、具体的で意欲的な数値目標を掲げたことであります。これは当社としては初めてのことであり、簡単に達成できるものではありませんが、この4月に再編された東京証券取引所の“プライム”市場上場企業として、社会に対してより大きな責任を果たしたいという思いから、皆様にお約束させていただいた次第です。

※2 基準:Scope1+2(2013年比)





1 トップメッセージ

“プライム”上場企業としての責任

このたびの市場再編では、“プライム”上場企業に対してESGをはじめとする、より広範な非財務情報の開示が求められることになりました。これはひとつのきっかけには違ありませんが、私たちのお客様や株主の皆さん、従業員といったステークホルダーの多くの方々が『自分たちが使用する原材料や、自分たちが投資している企業や、自分たちが働いている会社が、地球環境や社会に害を与えるような行動を取っているとしたら許せない』『環境の保全や社会の進歩に貢献するような行動を取ってほしい』と考えていること、さらには、その考えを「購入する商品や投資する企業、就職する会社をどう選ぶか」という行動で実践しているということは、日々の企業活動の中で肌感覚として感じていることでもあります。

ですから、私たちがこの『CSV報告書』に記載した諸課題に率先して取り組むことは、私たちが大切にしているステークホルダーの皆さんのご要望にいち早くお応えすることにつながり、世界中のライバル企業の中から“恵和”を選んでいただくための“競争力”となり得るものでもあるのです。決して「やらされる」ものではなく、企業として「是非取り組みたいし、それを皆様に伝えたい」ものなのです。それが、企業活動と社会貢献が同時に達成される“CSVカンパニー恵和”の真骨頂であります。





1 トップメッセージ

恵和のCSV活動のこれから

私たちはこれからも、これまでやってきた様々な取組みを更に推進していきます。例えば、再生可能エネルギー由来の電力の導入比率をさらに増やし、将来的には100%を目指したいと思っています。また、少しでもCO₂排出量が少なくなるようにボイラーの熱源(燃料)を変更したり、原材料の種類を変更したり、リサイクル原料の比率を増やしたり、といった施策に、地道に取り組めます。

このような、企業活動に伴う“負のアウトプットを減らす”活動だけでなく、恵和が提供する製品やソリューションによって社会にもたらす“正のアウトプットを増やす”活動にも邁進していきます。

現在の主力事業である光学フィルムの性能をさらに高め、液晶ディスプレイの省エネ化に貢献することはもちろんですが、それ以外にも水素自動車の燃料電池やハイブリッド車・電気自動車などの蓄電池に使われる特殊なフィルムの販売を増やすことで、環境負荷の少ない移動手段への置き換えに貢献します。また、老朽化した住宅の屋根やコンクリート高架橋などのインフラ設備の表面に貼るだけで保護・延命することができる画期的なシート“地球の絆創膏”「KYÖZIN®」など、脱炭素のみならずインフラ老朽化や人手不足といった社会問題の解決にもつながる「新しい価値の提供」をどんどん事業化していきたいと考えています。

まだまだ粗削りなこの『CSV報告書』ではありますが、引き続きステークホルダー各位のご指導ご鞭撻を賜りながらブラッシュアップして参りますので、時に厳しく、時に温かい目で見守っていただけますようお願いしつつ、私からのメッセージとさせていただきます。

2022年4月

恵和株式会社
代表取締役社長

長村 恵 弐





2 会社概要

社名	恵和株式会社(KEIWA Incorporated)
設立	1948(昭和23)年9月28日
代表者	代表取締役社長 長村 恵式
本社	東京都中央区日本橋茅場町2丁目10番5号
資本金	3,871,768千円(2022年4月末現在)
連結業績	<ul style="list-style-type: none"> ●売上高:18,130百万円 ●経常利益: 3,467百万円(2021年12月期)
従業員数	<ul style="list-style-type: none"> ●連結:480人 ●単体:353人(2021年12月末現在)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●光学シート事業 ●機能製品事業
グループ会社 (連結子会社)	海外4社〔 <ul style="list-style-type: none"> ●製造販売会社 1社(南京) ●販売会社 3社(台湾、ソウル、USA) 〕





2 会社概要

経営理念

自然と産業の調和を創造する
Creation of the Harmony
between Nature and Industry

人や自然に優しい製品やサービスを提供することで
社会に貢献するグループを目指しています

経営ビジョン

自然と社会の共通価値を
「高品質の提供」を通じて実現するCSV※グループを目指す

※CSV:Creating Shared Value

恵和バリュー

- | | |
|-------------|---------------|
| ① 社会貢献・自然貢献 | ④ 品質は競争力 |
| ② イノベーション | ⑤ 社員の幸福と自己啓発 |
| ③ 顧客からの信頼 | ⑥ ステークホルダーの満足 |





2 会社概要

経営戦略

① 新規事業創出の推進

複合拡散板(オパスキ®)、クリーンエネルギー資材、インフラ関連資材(KYÖZIN®)、
医療・衛生関連資材

② ウルトラプレシジョン経営(マーケティング・生産)によりグローバルニッチを目指す

③ AKI活動※の推進により、イノベーションを追求する

④ CSVの推進により、サステナビリティをより堅固にする

⑤ コーポレート・ガバナンス及びコンプライアンスをより強化する

※All KEIWA Innovation活動

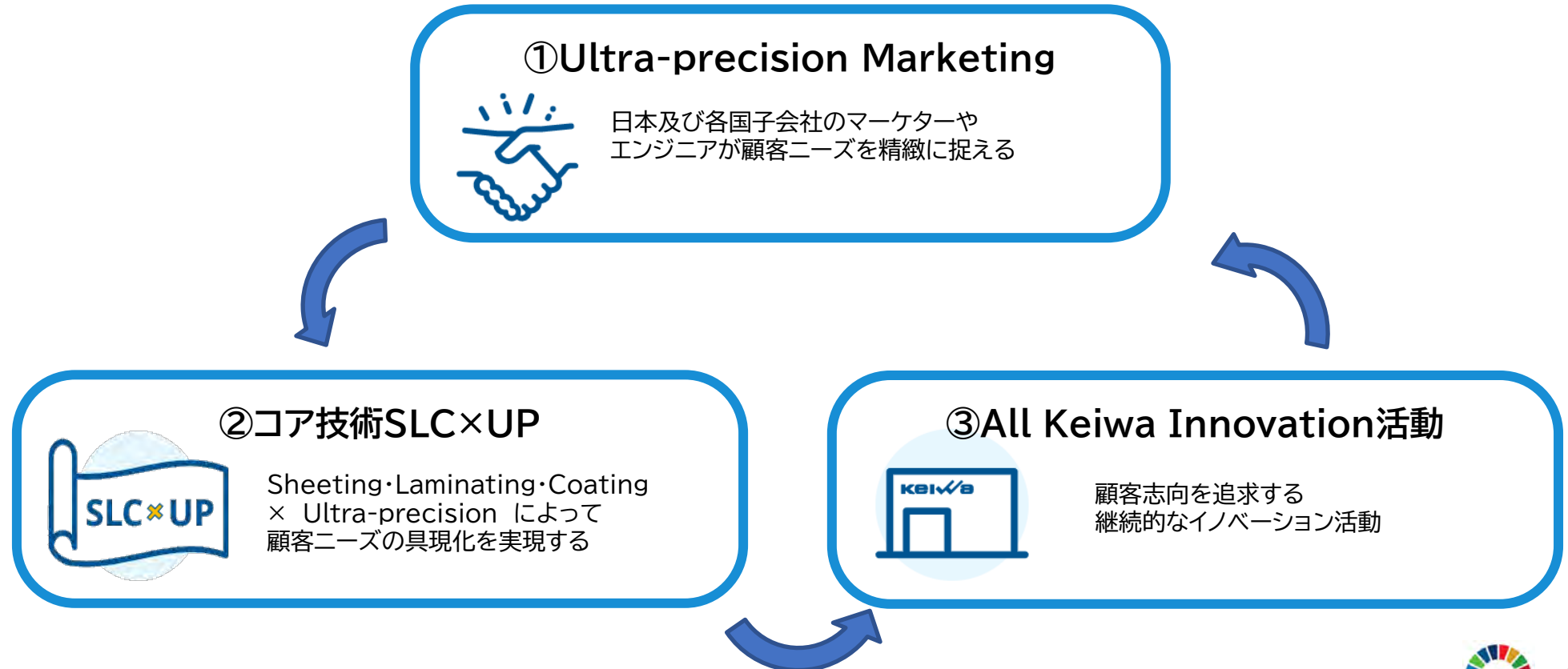




2 会社概要

恵和のコア・コンピタンス

- 顧客ニーズを精緻に捉え、SLC技術で具現化
- イノベーションを実現する社内体制で顧客満足を追う



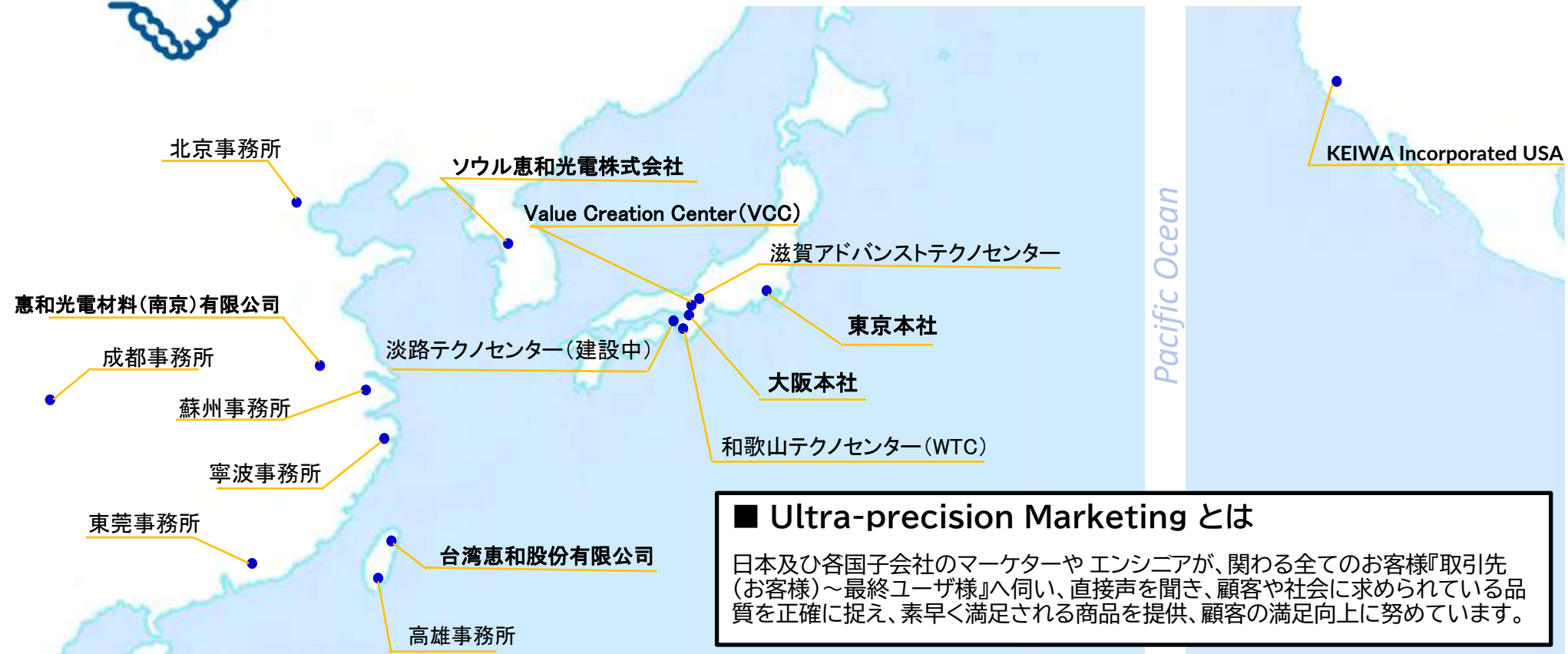


2 会社概要

① Ultra-precision Marketing



日本及び各国子会社のマーケターやエンジニアが顧客ニーズを精緻に捉える



■ Ultra-precision Marketing とは

日本及び各国子会社のマーケターやエンジニアが、関わる全てのお客様『取引先(お客様)～最終ユーザー』へ伺い、直接声を聞き、顧客や社会に求められている品質を正確に捉え、素早く満足される商品を提供、顧客の満足向上に努めています。





2

会社概要

② コア技術SLC×UP



Sheeting・Laminating・Coating × Ultra-precision によって
顧客ニーズの具現化を実現する



Sheeting 製膜

プラスチック樹脂からフィルムを作る技術



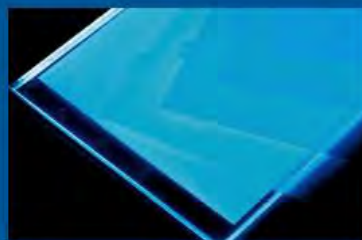
Laminating 積層

紙やフィルムに複数の材料を貼り合わせ新たな機能を付与する技術



Coating 塗布

多種多様な素材に多種多様な塗材を塗り機能・付加価値を持たせる



Ultra-Precision 高精細加工

紙やフィルム等の基材に極めて精細に加工印刷する技術

高品質・高精細な製品を製造・提供することで、社会に貢献します。





2 会社概要

③ All Keiwa Innovation活動 (AKI活動)



顧客志向を追求する継続的なイノベーション活動

■ AKI活動とは

恵和グループのすべての人たちが、お客様の期待・要求に対し、それを上回る高品質製品や新製品、デリバリーの提供を考えて行うイノベーション活動です。

All Keiwa Innovation の頭文字を取ってネーミングしていますが、以下の意味を含め活動に取り組んでいます。



基本。社員が安全である会社は顧客にも信頼され、顧客が安心して恵和に製品の供給が任される事にも繋がります。



お客様のことを考えて勉強し、活動の効果を正しく計算(理解)した上で行動することです。



イノベーティブな活動。新しい発想、行動により顧客としっかり結びついているかが大切です。(単なる発明、思い付き的改善だけではイノベーションではない。)



沿革

1948年/S23	長村秀太郎が神戸市に恵和商工株式会社設立
1966年/S41	東京営業所開設（現 東京本社）
1967年/S42	滋賀工場建設（現 滋賀アドバンステクノセンター）
1968年/S43	小倉工場建設（後の K-Site）
1970年/S45	千葉工場建設（後の T-Site）
1973年/S48	大阪市東淀川区に本社ビル建設
1990年/H2	長村秀太郎が会長に、長村恵氏が社長に就任
1992年/H4	創業者 長村秀太郎 没
1993年/H5	アタックテクノセンター I 建設（現 和歌山テクノセンター I）
1998年/H10	アタックテクノセンター（現 和歌山テクノセンター）において、「ISO 9001」認証取得
1999年/H11	社名を恵和株式会社に変更
2001年/H13	台湾に現地法人「台湾恵和股份有限公司」設立
2003年/H15	中国に蘇州駐在事務所を開設
2004年/H16	アタックテクノセンター II 建設（現 和歌山テクノセンター II）
2005年/H17	アタックテクノセンター（現 和歌山テクノセンター）において、「ISO 14001」認証取得
2006年/H18	中国に深圳事務所開設 中国に現地法人「恵和光電材料（南京）有限公司」設立

イノベーションの沿革

1948 防湿包装紙「ターポリン紙」
1955 防湿包装紙「ポリプルーフ紙」
1963 防湿包装紙「ポリラミ紙」



ターポリン紙



K-ライト

1969 気化性防錆包装紙「K-ライト™」



1976 農業資材「サニー」シリーズ
1981 農業資材「オーケータニ®シート」



タニシート

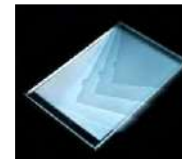


工程紙「A!prog」
（最終用途の例）

1986 工程紙「オルモペーパー®」
「A!prog®」シリーズ



1992 光拡散フィルム「オパルス®」



オパルス

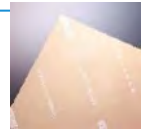


沿革

2007年/H19	「Appli-Sola®」販売開始 韓国に現地法人「ソウル恵和光電株式会社」設立
2008年/H20	滋賀工場(現 滋賀アドバンステクノセンター)において、「ISO 9001」認証取得
2009年/H21	滋賀工場(現 滋賀アドバンステクノセンター)において、「ISO 14001」認証取得
	アタックテクノセンターⅢ建設 (現和歌山テクノセンターⅢ)
2010年/H22	中国に寧波事務所を開設
2012年/H24	中国現地法人深圳事務所を東莞事務所に移転
	組織力を高めることにより顧客満足度向上を図り、会社の体質改善、発展に寄与することを目的としてAKI(All Keiwa Innovation)活動を開始
2013年/H25	米国に現地法人設立
2015年/H27	中国に北京事務所を開設 米国カリフォルニア州シリコンバレーに事務所開設
2016年/H28	東京本社を東京都中央区日本橋茅場町へ移転 大阪本社を大阪市中央区瓦町へ移転
2019年/R1	東京証券取引所 市場第二部へ上場
2020年/R2	Apple inc. のサプライヤー・クリーンエネルギープログラムの取組みに参加 和歌山テクノセンターにおいて、「IATF 16949」認証取得 東京証券取引所 市場第一部に指定
2021年/R3	初めての「CSV報告書」を公開 中国に成都事務所を開設 K-Site(旧 九州工場)を滋賀アドバンステクノセンターに移転統合
2022年/R4	T-Site(旧 東京工場)を滋賀アドバンステクノセンターに移転統合 東京証券取引所 プライム市場に移行

イノベーションの沿革

1996 再生可能防湿包装紙「トケバリア®」



トケバリア

アプリソーラ
(最終製品)2007 太陽電池バックシート
「Appli-Sola®」

2020 複合拡散板「オパスキ®」

2021 クリーンエネルギー向けフィルム「ACE」
医療・衛生向けフィルム「メディテクト」2022 建築・土木構造物の保護シート
“地球の絆創膏”「KYÖZIN®」

KYÖZIN



3 恵和の現状把握

重要テーマの特定

恵和株式会社は、多様なステークホルダーの皆さまと価値を分かち合えるように、重要テーマを特定しています。取組みにあたって、国際規格であるISO 26000・GRIスタンダードを参考にしています。

左記により整理した重要課題の候補を基に、ステークホルダーと恵和の重要度が共に高い項目について、経営ビジョン・恵和バリューとの関連性を考慮して、**6項目**について重要課題に特定しました。

高 ステークホルダーの重要度		新しい価値の創造 高品質の提供 安定供給、安定調達 ガバナンス 地域コミュニティ※
	環境汚染防止、 環境負荷低減	
	働き方改革への対応	労働安全衛生
		人材教育 ダイバーシティの推進

特定した重要テーマ

- ① 新しい価値の創造
- ② 高品質の提供
- ③ 安定供給、安定調達
- ④ ガバナンス
- ⑤ 環境汚染防止、環境負荷低減
- ⑥ 労働安全衛生

※「地域コミュニティ」の位置づけについて

『CSV報告書2020』では、7項目について重要課題に特定しましたが、今回は、「地域コミュニティ」を除く6項目を、重要課題に特定しました。

以前は、毎年工場見学を実施するなどしていましたが、コロナ禍の影響で頻度が大幅に減りました。地域コミュニティへの貢献の重要度が低下したわけではなく、直接触れ合う機会が減ったことを今回は考慮しています。

恵和の重要度

高



4 CSV目標

『恵和2030』に向けた戦略的指針

2015年の国連サミットにおいて採択されたSDGs(持続可能な開発目標:Sustainable Development Goals)は、持続可能な世界を実現するための17の目標と169のターゲットから構成され、「誰も取り残さない」世界の実現を目指した、地球上のすべての人を対象とした共通目標です。

恵和が描く未来の社会とは、持続可能な社会、つまりSDGsが達成された豊かな社会です。社会と深く関わる企業の責任を果たしていくため、企業活動のあらゆる側面で、SDGsを「より良い社会づくりのものさし」として活用し、新たな価値を提供していきます。

2030年の恵和のあるべき姿を追求し、多くのステークホルダーの皆さまのご要望に応え続けることで、恵和の使命を全うしていきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



《2030年に向けたステップ》



ステークホルダーと恵和の重要度を基に、今期必ず達成すべき重要テーマを決定します。

『恵和2030』の実現に向けて、恵和のあるべき姿を設定します。
(恵和の使命)

2030年に恵和のあるべき姿を達成するための具体的な行動指針を決定します。
(長期目標の設定)

2030年に向けた行動指針を軸に、今期達成すべき具体的な取り組みを決定し、行動に移し、定期的な進捗確認を行います。
(短期・中期目標の設定)





4 CSV目標

6つの重要テーマ	2030年のあるべき姿	具体的な取組み	関連するSDGs
① 新しい価値の創造	“環境・人・生活”にやさしい製品を、世界中に提供し続けます。	<p>私たちは次の3つにあてはまる製品を「新しい価値の創造」につながる製品」と定義し、その構成比率を向上させて参りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境：地球の環境をまもり、よりよい未来の環境づくりに貢献する製品 ・人：人々の健康を支え、医療の発展に貢献する製品 ・生活：暮らしの安全・安心をまもり、社会の発展に貢献する製品 <p>社会が抱える課題や求められるソリューションは変化し続けていることから、新製品の販売比率を新製品の比率を少しでも高めたいと考え、『販売開始から4年未満の製品の販売金額の割合』を指標として、その向上を目指してまいります。</p>	
② 高品質の提供	お客様のご要望に合致した「性能」「サービス」を“高品質”で提供し、顧客満足度の最大化を追求します。	<p>お客様に信頼していただくために、ISO 9001やIATF 16949の認証取得など、品質保証体制を構築します。</p> <p>また体制の構築にとどまらず、品質検査員の認定者登録などの社内資格制度や人材教育を充実させることでそのしっかりした運用を担保し、高品質を追求します。</p>	
③ 安定供給、安定調達	サプライチェーン全体で、お客様に安心・信頼していただける製品を提供します。	<p>安定供給、安定調達実現のため、以下のような取り組みを行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時に備えたBCPの定期的見直し ・品質検査や設備診断(監視)の自動化推進 ・スキルマップに基く従業員の技能水準向上 ・仕入先などの協力会社に対する評価や監査の実施 ・高水準のクリーン環境の確立と維持 	
④ ガバナンス	環境の変化に素早く対応できる体制を強化し、企業価値の向上を実現します。	<p>指名・報酬等諮問委員会を設置し、取締役の報酬案を審議・決定することで透明性を高めているほか、執行役員制度を導入し、経営と執行の役割と責任を明確化しました。また、情報セキュリティの強化による情報漏洩防止にも取り組んでいます。</p>	
⑤ 環境汚染防止、環境負荷低減	環境負荷低減、環境保全活動に取り組み、自然と調和した持続可能な循環型社会の発展に貢献します。	<ul style="list-style-type: none"> ・環境マネジメントシステムの運用構築 ・再生可能エネルギーへの転換 ・CO₂排出量の削減(2030年に2013年比46%減) ・産廃の削減、リサイクル推進(ISO 14001の運用) ・生産設備や方式の省エネ化(設備更新や効率化など) 	
⑥ 労働安全衛生	すべての従業員が心身ともに安心して働ける健全な職場環境をつくることで従業員満足度を高め、企業の成長を継続します。	<ul style="list-style-type: none"> ・「労働安全衛生方針」に基いた研修の実施 ・「健康経営優良法人」認証の取得 ・安全衛生パトロール活動(新鮮組) 	





5 組織力向上

AKI活動 - All KEIWA Innovation -

関連するSDGs



数十のチームが参加し、顧客満足向上へとつながるイノベーティブな活動を競いあう全社活動です。製造・営業・事務管理等、あらゆる部門からエントリーがあり、約半年かけて活動を推進します。特に社員の多くを占める製造部門では、毎年多数のチームが参加し、製造現場からお客様に価値を届ける数々の成果を創出しています。

第18回AKI活動報告（2021年6月～2021年11月）

第18回AKI活動は、全40チームがエントリーしました。

全社発表会が2021年11月18日(木)に大阪本社で開催されました。

関東、関西から審査の先生方や社外取締役の方々にご足労いただき、発表者と運営スタッフが一同に集まり、半期の活動を振り返って議論し、指導を受ける有意義な時間を過ごすことができました。



第18回AKI活動 全社発表会(発表の様子)

【40チームの内訳】

部門	チーム数
品質保証部門	2
戦略購買・管理部門	5
開発部門	5
技術生産部門	18
機能製品部門	3
光学シート部門	7
	計40

6つの重要テーマも反映し、AKI活動を実施しています。



CSV重要テーマ	テーマ数
1. 新しい価値の創造	7
2. 高品質の提供	5
3. 安定供給、安定調達	15
4. ガバナンス	4
6. 労働安全衛生	1
その他	8
	計40

※5. 環境汚染防止、環境負荷については、今年度は全社での取り組みとしています。





5 組織力向上

AKI活動の評価視点

AKI活動の6つの評価項目に沿って、厳選なる審査が行われています。

AKI活動では、戦略適合性と効率効果を重視しているため、マーケティング部門の場合は、売上と限界利益により目標達成に直結しています。

工場の場合は、工程内の改善活動で、顧客志向を重視した品質管理体制の強化、製品歩留まり向上、新製品の開発へのサポート、および工場全体の省人化等々が実現しつつあります。

AKI活動によって、会社の健全な発展を維持し、当社の製品・サービス提供を通じて、積極的に地球と未来社会に貢献することができます。

評価項目	主な視点
イノベーション	市場を創造する発明・発案であるかどうか
経営戦略適合性	経営戦略に合致しているかどうか
安全・健全	安全方針・コンプライアンスを遵守しているかどうか
テーマの深掘り度	テーマについて、どこまで深く掘り下げているかどうか
ストーリー性、プレゼン力	論理的にわかりやすく説明できているかどうか
経済性	ネットキャッシュフローを考慮に入れているかどうか

AKI活動の通常スケジュール

AKI活動は、6カ月を1サイクルとして進めています。(例:6月スタートの場合)

6月	7月	8月	9月	10月	11月
各部署エントリー (推進局が審査) 活動スタート	毎月月間報告会 (チーム活動へアドバイスなど)			部署発表会 (社内経営陣による 評価、優勝チームを 表彰する)	全社発表会 (社外有識者による 優勝したチームの 評価と表彰)



第18回AKI活動 全社発表会(優秀チームの表彰)





6 目標達成に向けた支援

教育支援体制

関連するSDGs



6つの重要テーマに取り組むための土台は人材です。

恵和では、社員一人ひとりが意図した結果を達成するために、また、エンプロイアビリティ(雇用され続ける能力)を高め、多様なステークホルダーの要望に応えるために、充実した教育支援により、誰もが活躍できる職場づくりを目指しています。

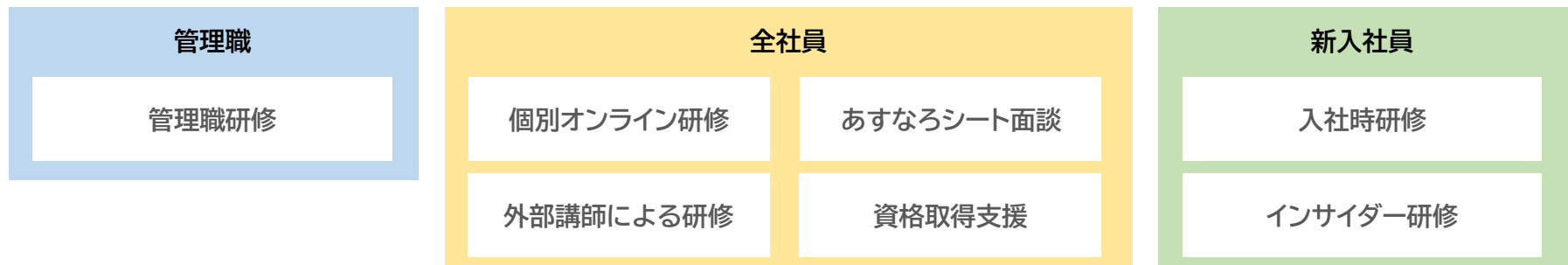
教育訓練プログラム(階層別研修、単元別研修、技術研修、OJT研修、語学力向上研修など)

恵和では、社員の成長を促す事が会社の業績向上につながると考えています。画一的な研修よりも、個人の成長課題にあった研修を提供していく事を目指しており、階層や抱えている課題に応じて集合研修や個別のオンライン研修など多数のプランを用意しています。

半年ごとに実施している上司との面談の際に、10年後のあるべき姿を考える「あすなるシート」というツールを使って成長課題の確認を行い、その人に合った内容の研修を受けることで、自ら描いた成長プランを実現できるような支援体制をとっております。

そうすることで、従業員の主体性を育みつつ、所属する組織が求める最大の成果が得られることを目指しています。

教育研修プログラム



6 目標達成に向けた支援

社内表彰制度(モチベーション、やる気)⇒MVP

恵和では、大きく貢献したと思う者を各本部長が推薦し、社長や取締役が審議の上「月間MVP」を選び、社長訓示の場で表彰しています。表彰者に贈呈されるMVPバッジは一回目の受賞が銅バッジ、二回目は銀バッジ、三回目は金バッジとなります。また、月間MVPとは別に、年間を通して特に会社への貢献が大きかった者は「年間MVP」として表彰され、トロフィーが贈呈されます。海外子会社も含めた恵和グループの全従業員に受賞のチャンスがあり、社内誌に掲載されて功績が全社に知られることもあり、特に若手社員の健全な競争意識やチャレンジ精神の醸成につながっています。

2021年実績



銅バッジ
[一回目] **45人**

>>



銀バッジ
[二回目] **8人**

>>



金バッジ
[三回目] **0人**



年間
MVP **7人**

働き方改革に対する取組み(「健康経営優良法人2022」に認定)



恵和株式会社(以下、当社)は、2022年3月9日付で経済産業省と日本健康会議が選定する「健康経営優良法人2022(大規模法人部門)」に認定されました。

当社は、社員の健康と働きがいを経営の重要な源泉と位置づけ、2021年8月に「健康宣言」を社内外へ表明しております。

今後も健康の維持向上といきいきと楽しく働くことが出来る職場環境づくりに取り組み、健康経営を推進してまいります。

【健康経営優良法人認定制度について】

地域の健康課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取組をもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度です。





7 CSV活動

① 新しい価値の創造

恵和2030

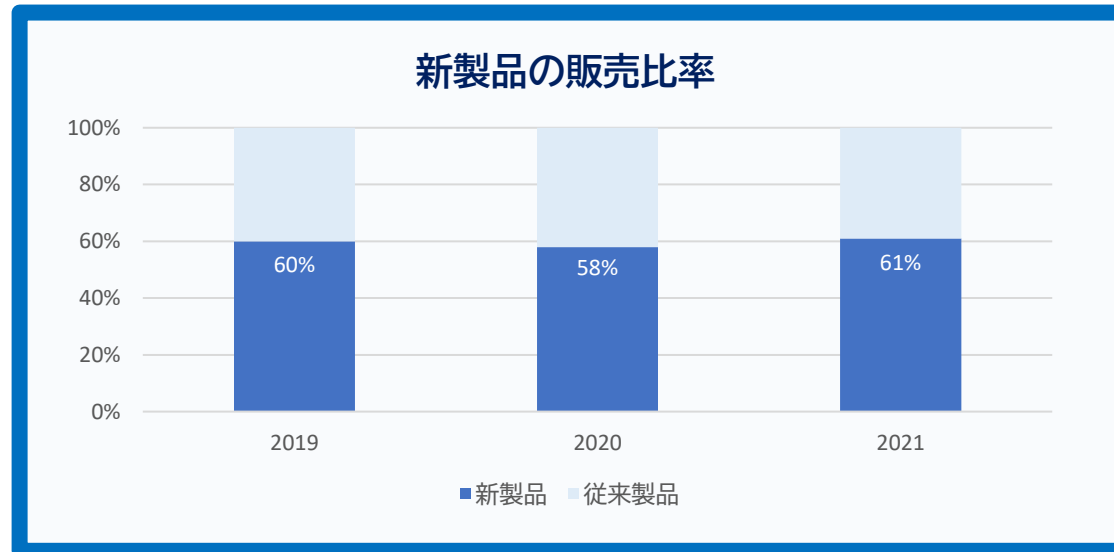
関連するSDGs



“環境・人・生活”にやさしい製品を、世界中に提供し続けます。

わたしたちは創業以来、地球環境の保全や社会の発展につながる製品を提供し続けてまいりました。しかし、社会が抱える課題や求められるソリューションは変化し続けています。

わたしたちは「環境」「人」「生活」に貢献するものを「新しい価値の創造」につながる製品」と定義し、新製品の比率を少しでも高めたいと考え、『販売開始から4年未満の製品の販売金額の割合』を指標として、その向上を目指してまいります。





7

CSV活動

環境

地球の環境をまもり、よりよい未来の環境づくりに貢献する

省資源・省エネルギーに貢献する製品、リサイクル材などの環境に配慮した原材料を使用した製品、環境負荷物質を使用・排出しない製品などの製品群です。



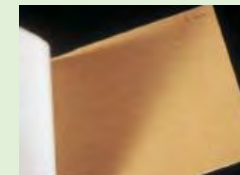
光拡散フィルム「オパルス®」
複合拡散板「オパスキ®」



太陽電池バックシート
「Appli-Sola®」



クリーンエネルギー車向けフィルム
「ACE」

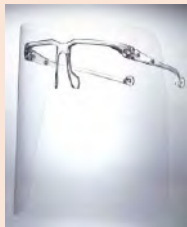


ウレタンフォーム工程紙
「オルモペーパー®」

人

人々の健康を支え、
医療の発展に貢献する

医療や衛生関連の用途に使用される製品群です。



医療・衛生用途向けフィルム「メディテクト」、「メディガード」



生活

暮らしの安全・安心をまもり、
社会の発展に貢献する

公共インフラの保全に貢献する製品や、平和で公正な社会の実現などに貢献する製品群です。



建造物保護シート「KYÖZIN®」





7 CSV活動

② 高品質の提供

恵和2030

お客様のご要望に合致した「性能」「サービス」を“高品質”で提供し、顧客満足度の最大化を追求します。

関連するSDGs



品質方針

恵和は、顧客満足の向上を追求するために、**品質マネジメントシステム**を運用構築しています。

1.顧客満足

顧客や社会に求められている品質を正確に捉え、満足される商品を提供する。

2.法令順守

法令・規制要求事項及びその他の要求事項(顧客要求事項等)を遵守する。

3.品質向上

新鮮な視点で問題点を捉え、課題を決めその解決に向け迅速に行動する。

4.品質目標の達成

目標は明確に定め定期的な見直しを行う。目標達成のため執念をもって明るくやりきる。中途半端で終わらせない。

5.継続的改善

品質マネジメントシステムの有効性の継続的改善に努める。



IATF 16949認証書
(※和歌山テクノセンター取得)



ISO 9001認証書





7 CSV活動

品質保証体制

お客様の信頼を得て選ばれるため、ISO 9001およびIATF 16949を認証取得し、品質保証体制を構築して運用し、高品質を追求しています。

● 顧客志向プロセス

製品実現に不可欠な営業プロセス、設計・開発プロセス、製品プロセスを軸に、お客様のニーズをインプットして、顧客満足につながるものをアウトプットしています。

● マネジメントプロセス

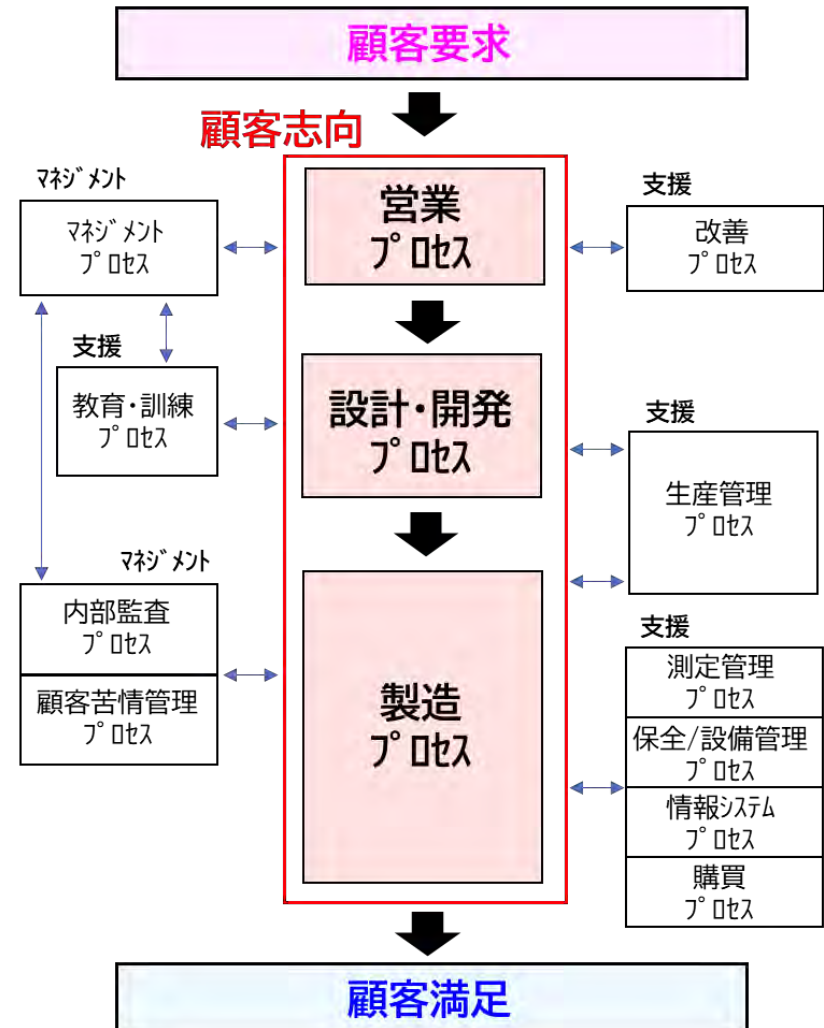
マネジメントレビューや内部監査を通じて、業務の進捗や内容を、全体で把握しています。

全体で進捗管理することにより、リスクの軽減にもつなげています。

● 支援プロセス

支援プロセスは、製品品質に大きく影響します。

必要なスキルやノウハウ(資源)を明確にして向上させることで、適切なアウトプットへとつなげています。



IATF 16949に基づく品質保証体制図





7 CSV活動

高品質を維持するための人材教育(認定者登録)

お客様に、より良い品質サービスを提供するためには、人材スキルの向上が不可欠です。

当社では、品質検査におけるスキルアップを確実なものにするため、作成したスキル認定のフローにしたがって教育を行う、認定者登録の仕組みを構築しています。

認定登録された従業員の声を聞くと、“検査技術が向上した実感がある”と、モチベーションアップにつながる意見があります。

回数	指導対象 検査分類	教育内容	所要時間	
① 1日目	A/B	AM: 検査手順書の説明 教材(見本等)による欠点現物の確認	2~3h	OJT
		PM: 検査員主導で、欠点現物(加工品)のOJT	1~2h	OJT
② 2日目		終日 対象者が一旦、全面を検査する ↓ 検査員のWチェック ↓ 答え合わせ ⇒ 判定 ⇒ 記録	1h/回	実践 ↓ 判定 ↓ 記録
		③ 3日目	C	AM: 教材(見本等)による欠点現物の確認
④ 4日目	PM: 検査員主導で、欠点現物(加工品)のOJT	1~2h		OJT
⑤ 5日目	A/B/C	◆ による計画 ⇒ 教育 ⇒ 実践 ◆ による判定 ⇒ 教育 ⇒ 実践 ◆ 結果の記録とアウトプット ⇒ 教育 ⇒ 実践	2~3h	OJT
		⑥ 以降	A/B/C	両面に対して、対象者主導の検査とWチェックの繰り返し

(例) 検査員の認定登録のフロー

● 継続的な人材教育

また、より良い品質サービスを提供し続けるため、人材スキルの維持活動を行っています。

それぞれの品質検査員のスキル維持において、外観欠点別で、検査員の検査レベルを定期的に確認し(半年に1回)、スキル管理表にて維持管理を実施しております。

スキル管理表		名前	(2021年 5月 10日)	(2021年 11月 11日)
項目				
7	外観検査			
	7-1 欠点A		4	4
	7-2 欠点B		4	4
	7-3 欠点C		4	4
	7-4 欠点D		4	4
	7-5 欠点E		4	4
	7-6 欠点F		4	4
	7-7 欠点G		4	4
	7-8 欠点H		4	4
	7-9 欠点I		4	4
	7-10 欠点J		4	4
	7-11 欠点K		4	4
	7-12 欠点L		4	4
平均			4.0	4.0

スキル管理表

※4段階評価: 指導できるレベルが4





7 CSV活動

③ 安定供給、安定調達

恵和2030

サプライチェーン全体で、お客様に安心・信頼していただける製品を提供します。

関連するSDGs



緊急時に備えたBCPの定期的見直し

WTCでは、危機の発生に際し、次の目的を達成および維持するものとします。

- ・従業員とご家族を守り、負傷者、犠牲者を出さない。
- ・自社の災害を最小限にとどめ、速やかに復旧する。

緊急事態が発生した場合、緊急対策チームによる対応に当たります。

上記の緊急事態に備え、全従業員を対象に年2回、対応訓練を実施しております。



避難訓練・BCP訓練



恵和のBCP

2021.12.3 に和歌山県御坊市を震源とする震度5度弱の地震が発生しました。突発的な出来事でしたが、「緊急事態対応計画」を基に、定期的を実施している訓練が生かされ速やかに避難することができたため、負傷者はゼロでした。

体験後、社員全員にアンケートを実施し、実体験を基にした課題点の声も上がっており改善していきます。又、隣接する工場との災害時における取組みの共有を行い、今後も安全活動について情報交換を行っていきます。

自然災害や大規模な交通の寸断等により、帰宅が困難となった従業員および会社ご来場者様等に提供するための食糧・水・寝具等を備蓄しております。



2021.12.3避難時の様子





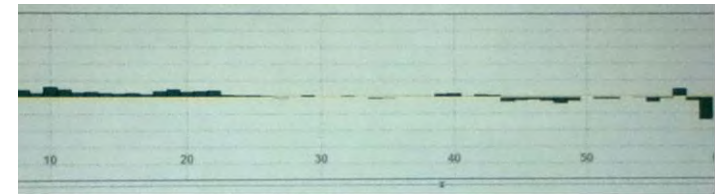
7 CSV活動

自動化の推進

自動化により、不良品を作らない、高品質な製品を作りこむ活動を一部ご紹介いたします。
また作業を標準化して自動化することで、将来的に貴重な人的資源をより創造性の高い仕事に振り向けることを目指します。

①シート成形技術 における厚み制御

コア技術である“シート成形技術”において、製品ロールの幅方向の厚みについて、自動制御で品質管理を行っております。
厚み計で測定したデータを取り込み、目標の厚みに対して偏差がなくなるように均一に製造できる、自動制御装置を導入しています。



厚みプロファイル

② 自動検査機に よる検査

光学フィルムの品質検査において、世界最高水準の自動検査装置を導入しています。(2017年から、ブラッシュアップしています。)
これまで人の目視検査に頼っていましたが、自動化することで品質のバラツキが抑えられ、お客様が要求する高度な品質に対しても安定した精度で、製品提供できます。
不良箇所などの情報は、データで蓄積され活用することが可能となっています。
例えば、不良箇所のデータを他の検査機と共有し、全体の作業効率を高めることや、不良品の詳細データを分析して品質改善に役立てる、など、貴重な情報を今後につなげています。



自動化の工程

③ 軸受診断に よる予防保全

これまでは教育を受けたオペレーターによる確実な設備点検と、徹底した設備保全計画にて予防保全を進めておりましたが、微細な振動が品質のバラツキに繋がることもあり、オンラインで軸受けの振動を診断出来る装置を導入致しました。
微細な振動であっても装置側に表示する事で、軸受けの劣化具合の傾向管理が出来る様になり、より高いレベルでの予防保全が可能となっております。





7 CSV活動

安定供給を可能にする人材教育（スキルマップ）

世界最高水準の生産体制を維持するためには、人材教育は必要不可欠となります。

当社では、「スキルマップ」を有効活用し、各工程で必要な業務スキルの項目を可能な限り洗い出します。そして、それぞれの従業員のスキルに点数を付けて、定期的に評価しています。

現在値と目標値を明確にすることで、一人ひとりが、「今」何が足りないのか。その上で、どのような教育が必要かを一元管理しています。目標値に向かってレベルアップを促進する形にしております。

この「スキルマップ」により、多能工（一人で複数の工程を遂行できる）を実践しています。

各工程の業務スキルの見える化を行うことで、自分一人しかできない業務をなくし、業務の平準化を図っています。

業務スキル 資格等		氏名		A		B		C		D		E		F		G		H		
		顧客対応	認定日 更新日	現在	目標	現在	目標	現在	目標	現在	目標	現在	目標	現在	目標	現在	目標	現在	目標	
顧客対応	認定日 更新日	2019/11/25 2020/3/4 2020/11/13 2021/5/10 2021/11/11																		
測定・出荷検査	認定日 更新日	2019/11/25 2020/3/4 2020/11/13 2021/5/10 2021/11/11																		
工程検査	認定日 更新日																			
	認定日 更新日																			
項目	必要能力・技能	必須スキル	現在	目標	現在	目標	現在	目標	現在	目標	現在	目標	現在	目標	現在	目標	現在	目標	現在	目標
<品質保証業務>																				
1	クリーンルームの知識	◎	4	4	3.8	4	3.8	4	3.8	4	3.8	4	4	4	4	4	4	4	4	4
2	製品仕様、検査基準	◎	4	4	2.8	3	3.4	4	3.2	4	2.9	3	2.7	3	2.1	3	2.1	3	2.1	3
3	クレーム対応	○	4	4	1.5	2	1.3	2	1.3	2	1.3	2	1	2	1	2	1	2	1	2
4	顧客訪問	○	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1.3	1	1	1	1	1	1	1
5	現場指導	○	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3	1.3	2	1.3	2	1.3	2
6	分析能力	○	4	4	1.5	2	2.3	3	1.5	2	3	3	1.8	2	1	2	1	2	1	2
7	外観検査	△	4	4	1.1	2	3.2	4	1.2	2	1.2	2	3.9	4	3.9	4	3.9	4	3.9	4
8	計測機器の測定	●	3.5	4	3.3	4	3.4	4	4	4	3.5	4	2.4	3	1.8	2	1.8	2	1.8	2
9	ISO9001 14001の知識	○●△	2	3	2	3	2	2	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3
10	IATF16949の理解	○●△	2	3	2	3	2	2	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3
11	コアツール(APQP)の知識		2	3	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2
12	コアツール(PPAP)の知識		2	3	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2
13	コアツール(SPC)の知識	●	4	4	3	4	3	4	3	4	3	4	1	2	1	2	1	2	1	2
14	コアツール(MSA)の知識	●	4	4	3	4	3	4	3	4	3	4	1	2	1	2	1	2	1	2
15	コアツール(FMEA)の知識		3	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
16	CSR・CRの知識	○●△	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2





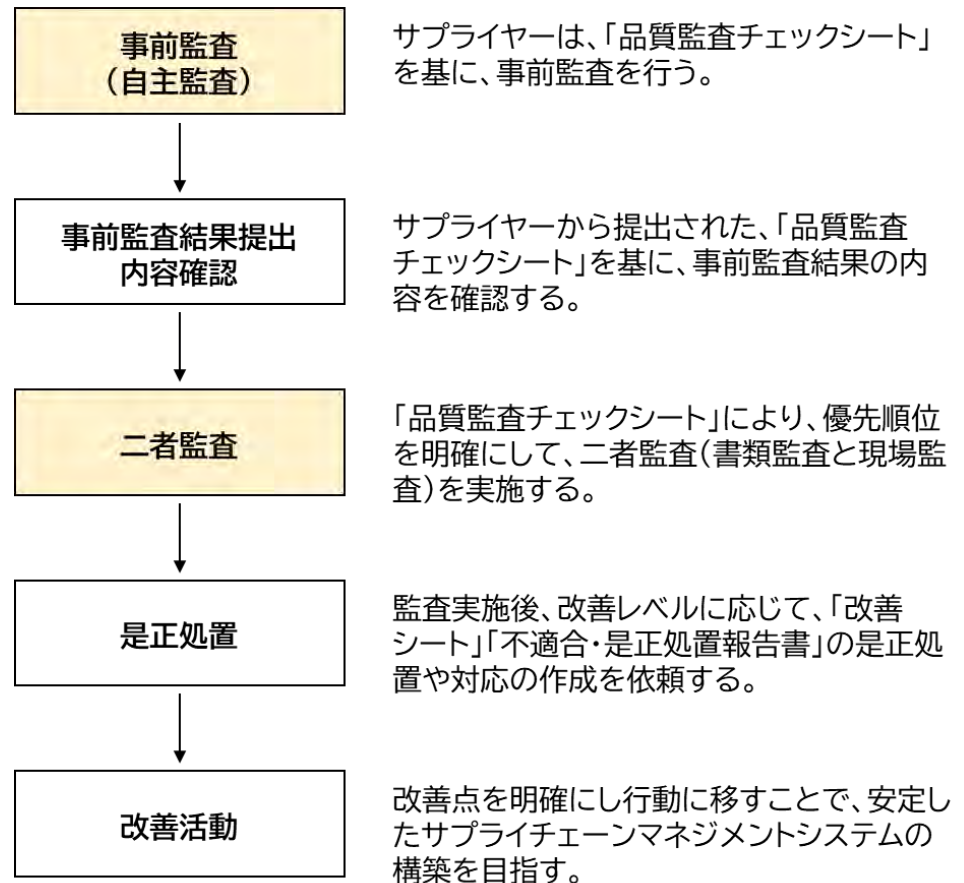
7 CSV活動

原材料メーカーを含めた協力会社に対するの監査および教育（二者監査）

監査の3ヵ年計画を作成して、外注先・仕入先など外部提供者・供給者（サプライヤー）に対して、当社の要求通りの製品（原材料）やサービスの提供が可能か、品質管理などの仕組みに問題が無いかなど、二者監査を実施しています。

二者監査を行うことで、サプライヤーの内部では見つけれなかった部分の指摘を行い、サプライヤーがより良いマネジメントシステムを構築していただくよう、サプライヤーの育成にもつながる活動を実施しております。

サプライヤーそれぞれに到達目標を設定し、恵和がサプライヤーに求めるシステム構築レベル（ISO 9001構築レベル・IATF 16949構築レベル）を明確にします。
そして、二者監査を通じて、意思疎通を図り、サプライヤーの認識レベルを高めます。



二者監査（サプライヤー監査）の主な流れ





7

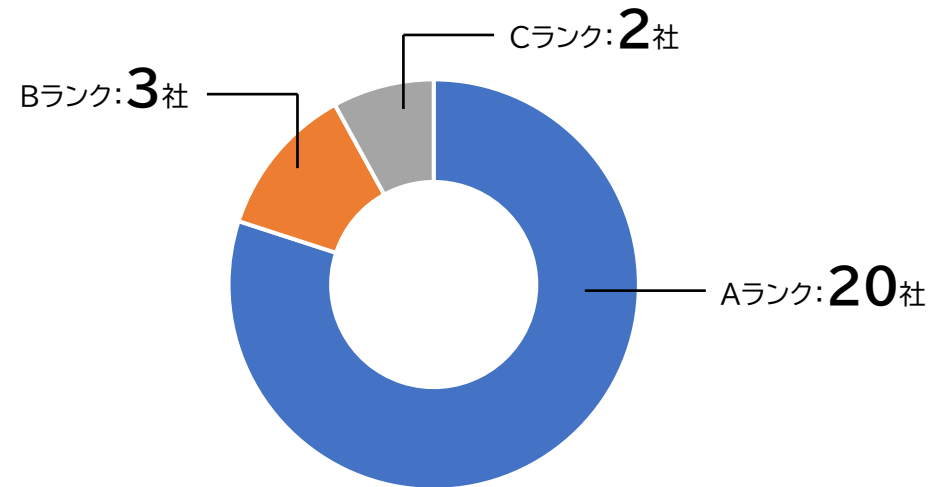
CSV活動

取引先様自己評価実施

7テーマ(労働・人権・安全衛生・環境・倫理・サプライヤー・BCP)に基づき、上位25社のサプライヤー様に自己評価をしていただきました。

項目	番号	調査内容	選択説明
労働	1	従業員の労働時間を管理するシステムがあるか？	1.はい 2.いいえ
	2	従業員に最低賃金以上の賃金を支払うシステムがあるか？	1.はい 2.いいえ
	3	時間外労働には、時間外手当を支払うシステムがあるか？	1.はい 2.いいえ
	4	賃金は、労働時間の終了後30日以内に支払われているか？	1.はい 2.いいえ
人権	5	従業員を、年齢、障害の有無、民族、性別、人種、宗教等で、不当に差別しないことを決めているか？	1.はい 2.いいえ
	6	強制労働や人身売買を禁止することを決めているか？	1.はい 2.いいえ
	7	ハラスメントや不当な扱いを禁止することを決めているか？	1.はい 2.いいえ
	8	内部告発システムはあるか？	1.はい 2.いいえ
安全衛生	9	安全衛生管理について定めた規定類はあるか？	1.はい 2.いいえ
	10	労働安全衛生上のリスクアセスメントを行っているか？	1.はい 2.いいえ
	11	危険にさらされる作業をする作業者には、保護具を提供しているか？	1.はい 2.いいえ 3.非該当
	12	労働災害発生時に、原因特定、是正措置、予防措置を行う手順があるか？	1.はい 2.いいえ
環境	13	大気汚染物質を特定し、排出基準を守っているか？	1.はい 2.いいえ 3.非該当
	14	廃水物質を特定し、排出基準を守っているか？	1.はい 2.いいえ 3.非該当
	15	廃棄物は適切に管理し、処理又は処理委託を行っているか？	1.はい 2.いいえ 3.非該当
	16	環境事故等発生時に、原因特定、是正措置、予防措置を行う手順があるか？	1.はい 2.いいえ 3.非該当
倫理	17	倫理又は行動規範を明記した文章はあるか？	1.はい 2.いいえ
サプライヤー	18	サプライヤーに対して、労働、人権、安全衛生、環境の法令遵守状況を定期的に確認しているか？	1.はい 2.いいえ 3.非該当
BCP	19	災害や事故など不測の事態を想定し、事業継続計画書を作成しているか？	1.はい 2.いいえ

■ 評価結果 (A~Cの3段階評価)



ランク	評価基準
Aランク	恵和の求める水準に問題なく達している。
Bランク	恵和の求める水準に達しているが、経過観察の段階で、今後改善が必要になってくる。
Cランク	恵和の求める水準に達しておらず、早期の改善が求められる。

今期は、23社のサプライヤー様がAランクまたはBランクとして、恵和が求める水準をクリアしています。また、Cランクの2社に対しては、個別面談を実施し、原因分析と改善要求を促すとともに、今後は必要に応じて、二者監査を有効活用し、サプライチェーンマネジメントの更なる底上げを目指します。





7 CSV活動

④ ガバナンス

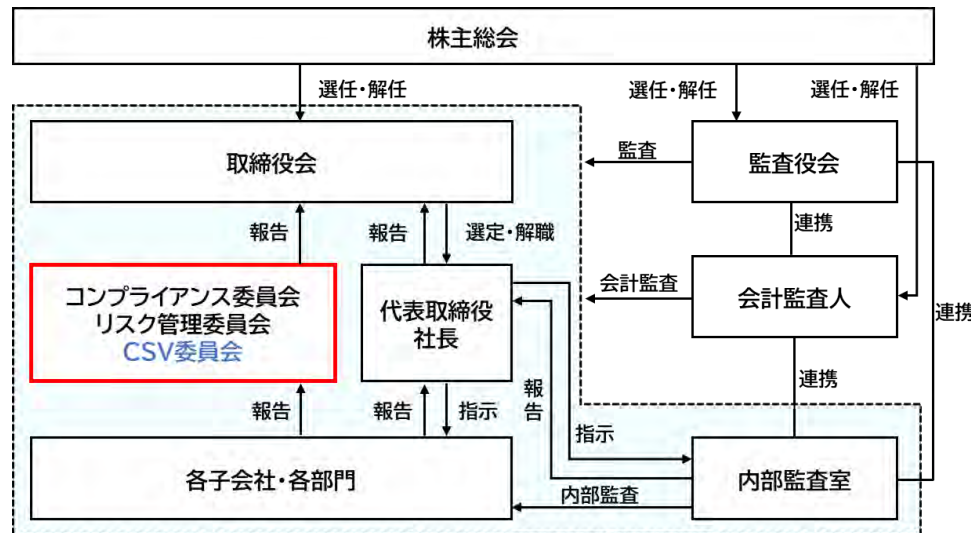
恵和2030

関連するSDGs

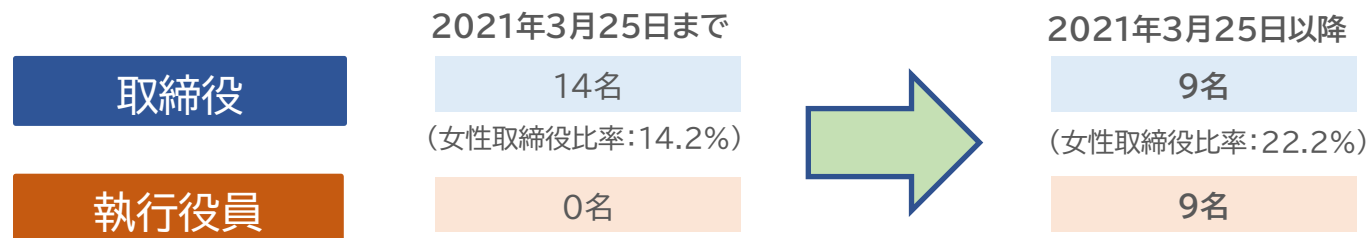


環境の変化に素早く対応できる体制を強化し、企業価値の向上を実現します。

わたしたちは以下の体制により、ステークホルダーの信頼に応える体制をつくります。



また、2021年3月25日の定時株主総会で**執行役員制度を導入し、経営と執行の役割分担や責任の所在を明確化しております。**

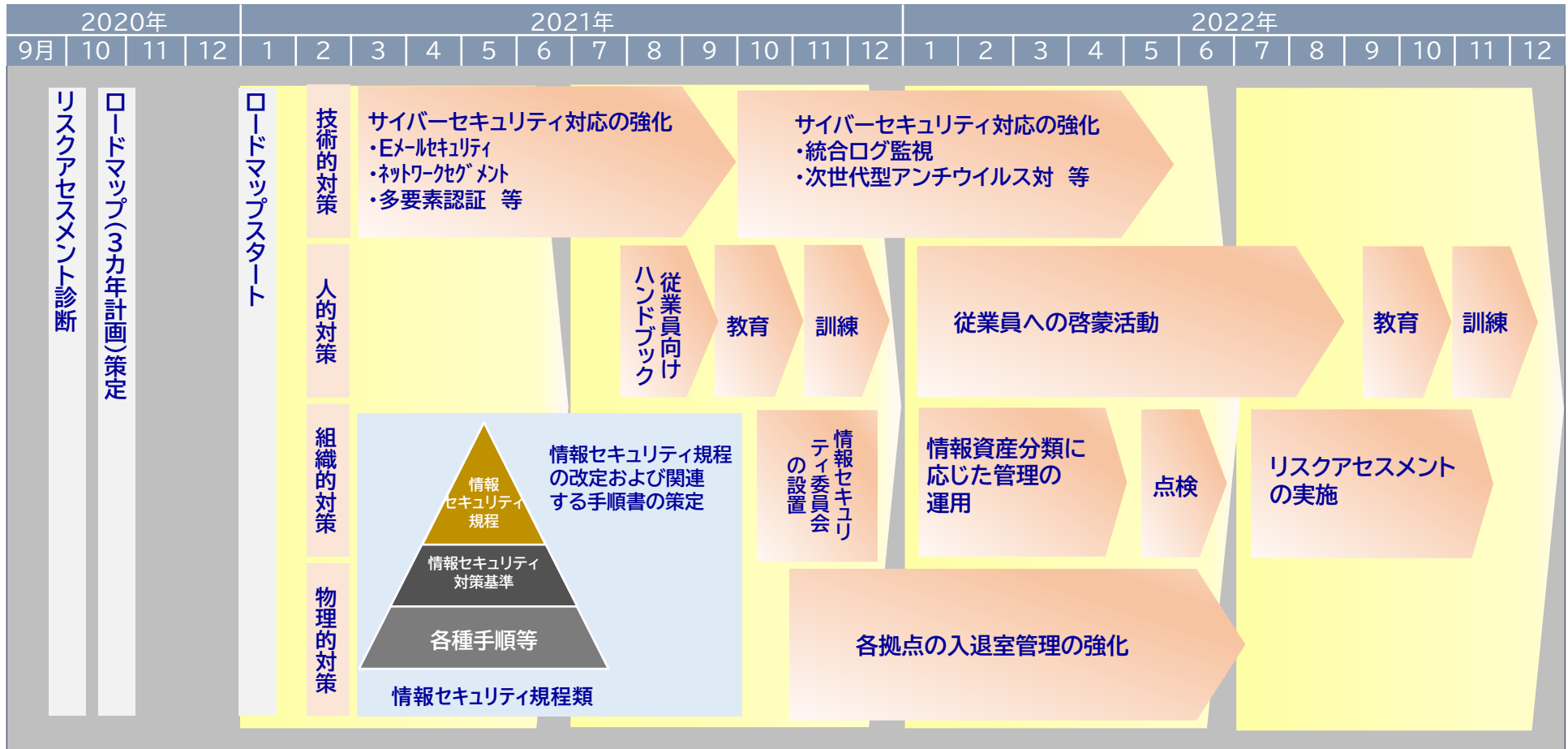




7 CSV活動

高度な情報セキュリティ体制の構築

お取引様や当社の機密情報などが流出しないよう、外部の専門業者によるアセスメントを行い、3年計画で情報セキュリティの強化に取り組んでおります。





7 CSV活動

⑤ 環境汚染防止・環境負荷低減

恵和2030

環境負荷低減、環境保全活動に取り組み、
自然と調和した持続可能な循環型社会の発展に貢献します。

関連するSDGs



環境方針

恵和は、環境保全に貢献するために、**環境マネジメントシステム**を運用構築しています。

1.持続可能な社会の実現

エネルギー使用量の削減、歩留り改善による廃棄物削減及び、環境汚染防止に努め、環境に配慮した製品を提供します。

2.法令順守

環境に関する法規制及びその他の要求事項(地方条例、地域との協定、自治体の指導事項、顧客要求事項など)を順守します。

3.社会貢献

地域の環境保全活動に積極的に参画し、地球環境改善に貢献します。

4.継続的改善

生産活動、製品及びサービスが環境に及ぼす影響を認識し、環境目標の設定を行い改善活動を実施します。また、内部監査及びマネジメントレビューを定期的に行うことによって、環境マネジメントシステムを見直し、継続的改善を図ります。

5.環境教育・啓発活動

環境方針の周知、訓練、個人目標管理、改善活動を通じて、従業員一人一人の環境保全に対する意識の向上を図ります。



ISO 14001認証書

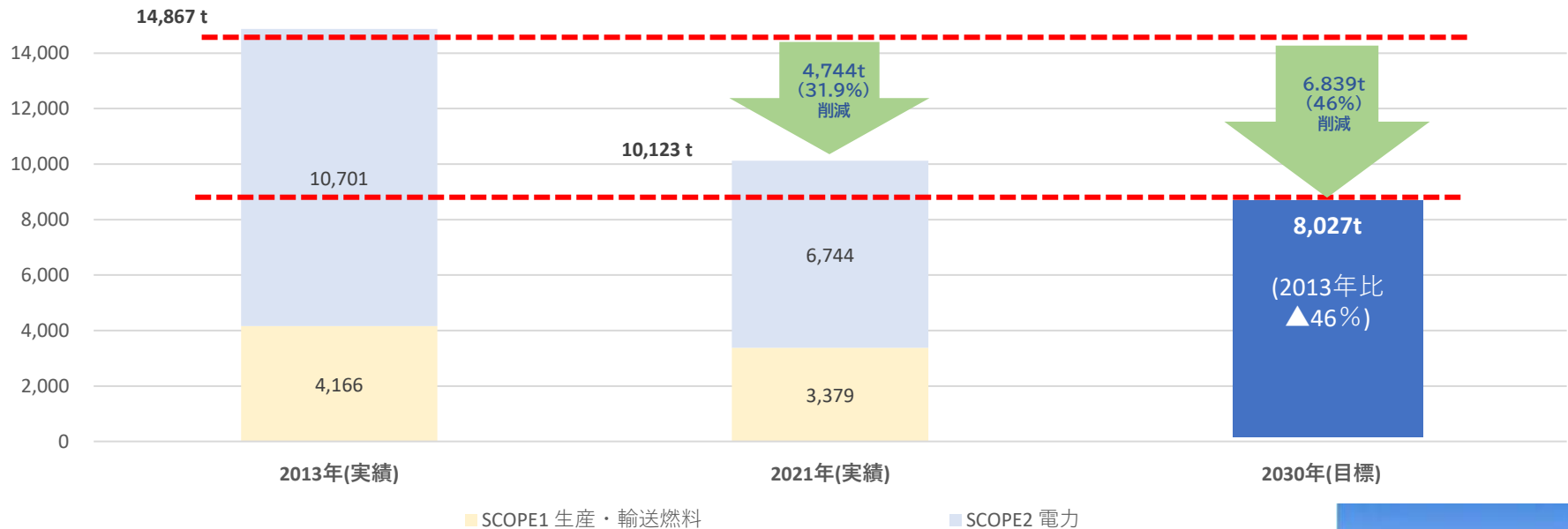




7 CSV活動

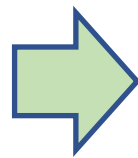
再生可能エネルギーへの転換

2021年のCO₂排出量は、削減目標1,700tに対して削減実績2,160tで「達成」となりました。
今回新たに、2030年のCO₂排出量※を、2013年実績比46%以上削減します。※(SCOPE1+SCOPE2)



そのために、以下の施策を行います。

- ・CO₂排出原単位の少ない熱源や原材料への変更
 - ・近隣に立地する風力等再生電力の地産地消
 - ・太陽光発電設備の設置
 - ・高効率な生産方式の導入
- など



**2022年度中に、RE100※
の宣言をめざします。**

※企業が、事業で使用する電力の再生可能エネルギー100%化にコミットする協働イニシアチブ





7 CSV活動

産廃の削減、リサイクル推進（和歌山テクノセンターでの取り組み）

恵和は、製品開発時には廃棄ロスを最小限に抑えた設計を行い、製造時に出てしまう廃棄物の抑制やリサイクルを推進しています。環境負荷の低減に向けて、より一層の削減への取り組みを行ってまいります。

【ISO 14001の運用】

①環境マニュアル運用

私たちは、関連法規制を順守した製品・サービスの提供を行い、当社の製品・サービスの環境への配慮を確立し、環境負荷低減につなげる為、環境マニュアルに沿って環境活動を促進し、環境マネジメントの構築につとめています。

②環境目標設定・取り組み実施

各課で環境負荷低減を達成するための環境目標を設定・活動し目標達成につとめています。歩留まり向上によるロス削減（廃液削減・廃プラスチック削減など）・電気使用量削減などの目標を掲げ、削減につとめています。

③環境会議開催

月1回 環境会議を開催し、環境目標達成状況確認やBCPの定期見直しを行っています。

④リサイクルの実施

排出された廃棄品のリサイクル品種を増やす活動を実施しています。



ISO 14001マニュアル





7 CSV活動

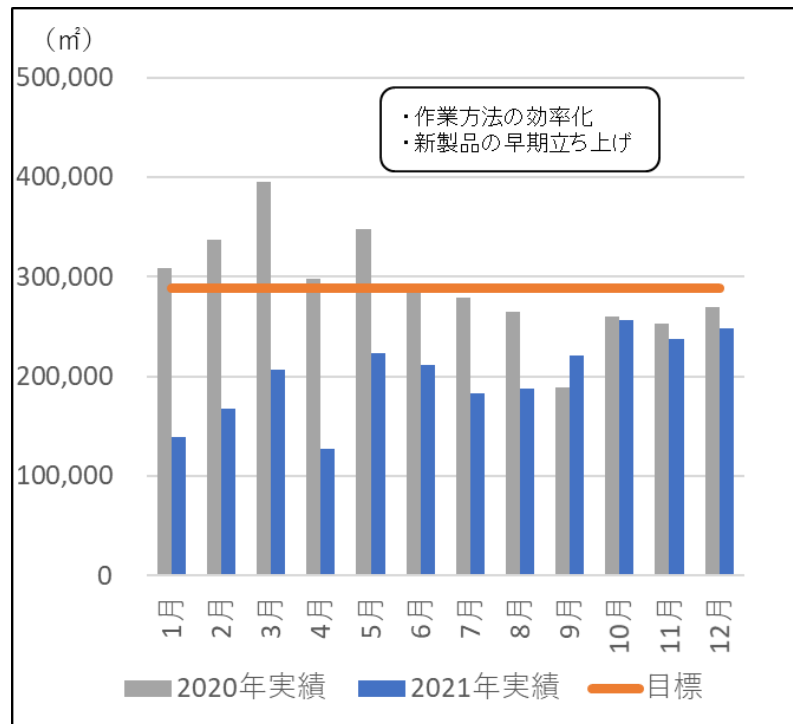
廃プラスチック・廃液削減実績について（和歌山テクノセンターでの取組み）

生産現場では、製品ごとに設定された条件に基づいて作業方法の効率化や生産立ち上げ時の廃棄物削減に取り組みながら、リサイクル目標を達成できるよう、月ごとに進捗確認と対策を講じてリサイクルを推進しています。

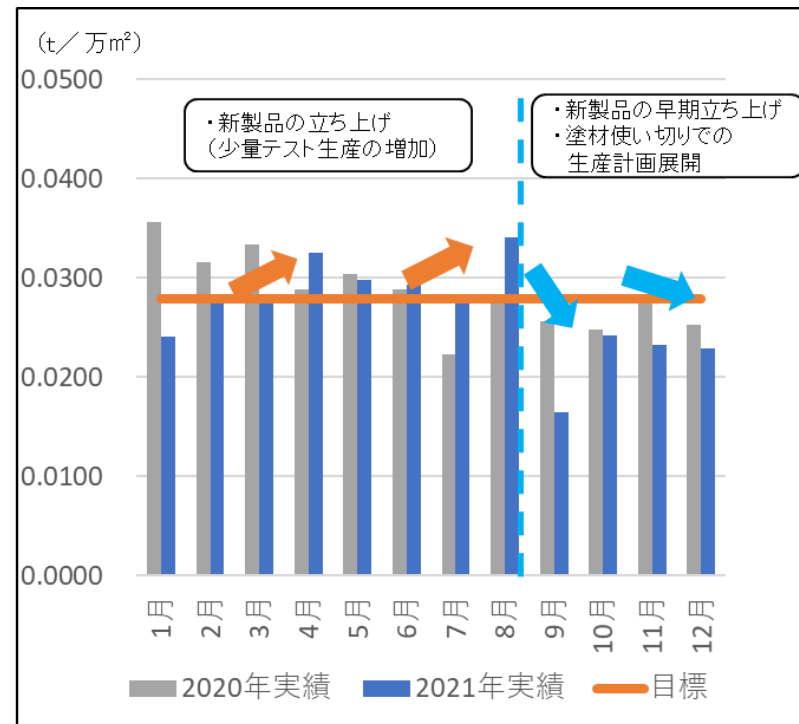
この1年間を通しての活動実績としては、廃プラスチックについては、対前年比で削減が実現できており、新製品の立ち上げにも対応しながら継続的な歩留り向上の活動を続けてまいりました。

廃液削減については、対前年比で削減には至りませんでした。新製品の早期立ち上げ、配合した塗材を全て使い切ることができるような生産計画を展開することで、次年度につながる活動となりました。

目標とする環境負荷の低減に向けて、より一層の削減にむけて取り組んでまいります。



廃プラスチック



廃液





7 CSV活動

⑥ 労働安全衛生

恵和2030

関連するSDGs



すべての従業員が心身ともに安心して働ける健全な職場環境をつくることで従業員満足度を高め、企業の成長を継続します。

労働と人権に関する方針

恵和は、「世界人権宣言」、「労働における基本的原則及び権利に関する国際労働機関(ILO)宣言」、「国連グローバル・コンパクト」等の人権に関する国際行動規範を踏まえ、人権の尊重において企業としての社会的責任を果たし、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

1.差別の禁止

あらゆる企業活動において、人種、信条、性別、年齢、社会的身分、門地、国籍、民族、宗教または障がいの有無などの理由による差別をしないことを約束します。

2.強制労働・ハラスメントの禁止

いかなる種類の強制労働も行わないこと、また、虐待や各種ハラスメント(嫌がらせ)などの過酷で非人道的な扱いを行わないことを約束します。

3.未成年者不法就労防止と児童労働禁止

各国の最低年齢法と要求を遵守し、未成年者不法就労と児童労働を行わないことを約束します。

4.労働基準に関する法令の遵守

労働時間や賃金等の労働基準に関する各国・各地域の法令等の遵守に努めます。

5.結社の自由と団体交渉の尊重

結社の自由と団体交渉権の権利を各国・各地域の法令等に従い尊重します。

6.安全で働きやすい職場環境の確保

安心して働ける職場環境を整備するとともに、緊急時における従業員の安全を確保することを約束します。

7.公平な機会の提供

従業員は恵和にとってかけがえのない財産であると考え、その限りない可能性を発揮する機会と能力を向上させる機会を提供するため、従業員一人ひとりの多様性、人格、個性、人権を尊重し、能力に応じた機会を公平に提供することを約束します。





7 CSV活動

安全衛生活動の取組み

PDCAサイクルに基づいて、さまざまな安全衛生活動に取り組み、継続的改善を続けています。当社の取組みの一部をご紹介します。

安全

【ヒヤリ・ハット提出】

業務中や安全パトロール時などに感じたヒヤリ・ハットを見逃さないために、ヒヤリ・ハットカードに記入し提出しています。

HHカード	
提出日	氏名
いつ	どこで
状態：いずれかを記述して下さい。 (例：不安全行動・不安全状態・両方) (注：両方)	
事故の概要：いずれかを記述して下さい。 (例：打撲・転倒・火傷・はきまき・転落・労働災害による健康被害 労務欠出・遅刻・交通事故・保護具の不備・集中力・疲労・感傷 その他)	
何があって、どのような危険を感じたか(転倒しそうになった等)	

【安全パトロール実施】

毎月テーマを決めて現場や事務所の安全パトロールを実施しています。不安全状態・不安全行動・良いところの抽出や、現場従業員とのコミュニケーションを図っています。

【不安全状態・不安全行動改善実施】

安全パトロールで抽出した不安全状態・不安全行動を無くすため、主に対象の現場で対策しています。

【リスクアセスメント実施】

安全パトロールやヒヤリ・ハット、現場作業者が抽出したリスクを当社独自の評価方法でリスク評価し、対策に漏れが無くよう、リスクアセスメントに展開しています。

【ヒヤリ・ハット改善実施】

提出されたヒヤリ・ハットを改善しています。提出者自身が実施した改善は“自創改善”として評価しています。(自創改善は改善維持効果が高いと検証したため、自創改善を推奨しています)

【安全フォローパトロール実施】

安全パトロールで抽出された不安全状態・不安全行動における対策が維持できているか、翌月に確認しています。

【リスクアセスメント 相談会開催・対策実施】

現場作業者から安全衛生委員へ、リスク対策実施状況の報告や、リスク対策を進めるうえでの相談を掲示板を設けて行い、迅速な対策につなげています。

【新鮮組活動実施】

安全パトロールや安全教育時に受け取った従業員からの意見を解決するため、また安全衛生委員会でのアドバイスなどを受けて、避難経路の見直しや安全教育など、さまざまな活動を行っています。

【安全昼礼開催】

ヒヤリ・ハット対策状況やリスクアセスメント進捗確認など、安全衛生活動を活性化させるため、安全衛生委員が日々安全昼礼を開催しています。

【安全教育実施】

毎月テーマを決めて安全教育と理解度テストを実施しています。理解度テストで従業員から安全衛生に関する意見も抽出し、活動の展開につなげています。

準備

実施

評価

改善

【ストレスチェック実施】

50人未満の拠点を含め、年1回ストレスチェックを実施しています。

【メンタルヘルス対策セミナー実施】

年1回、外部講師を招き、管理者を対象としたメンタルヘルスセミナーを実施しています。

衛生





8 活動実績評価

マネジメントシステム監査

関連するSDGs

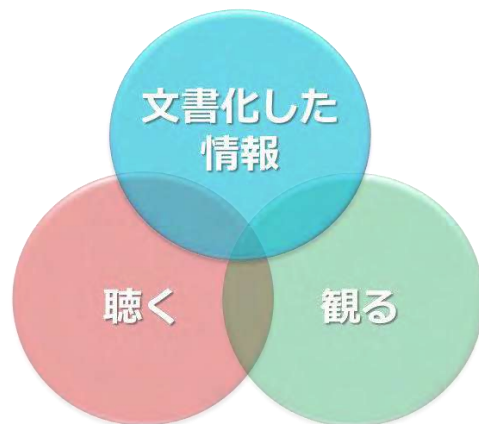


恵和のCSV活動をより確かなものにするための振り返り(有効性評価)を実施します。情報に左右されない、判断のよりどころを構築し、組織の価値向上につなげる監査を実現しています。

恵和のマネジメントシステム監査とは？

恵和が、高品質な製品を作り続けることができるのは、内部の眼による確かな評価の賜物です。外部講師による、ISO 9001/ISO 14001/IATF 16949 の内部監査員教育を受講した精鋭による内部監査は、気づきと改善を促す貴重な時間になっています。

情報に左右されない思考力と、情報の有効性を評価する判断力を養うことで、自身の言動に根拠が生まれ、判断のよりどころの確立に繋がります。

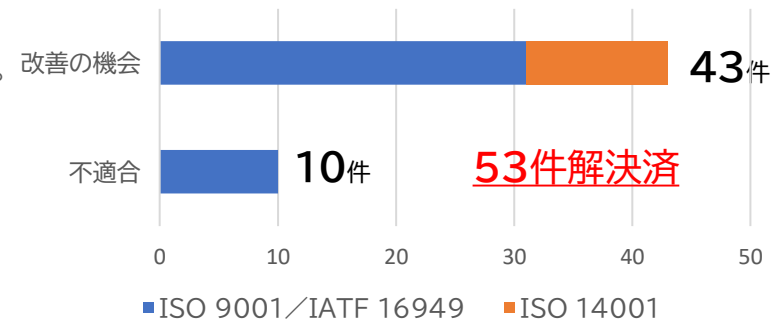


監査証拠

内部監査は検証活動の繰返しです。一人ひとりの仕事が、意図した結果を達成することへと繋がっているかを監査基準から判定し、監査証拠を収集し、それを客観的に評価します。

ISO 9001/ISO 14001/IATF 16949の各規格要求事項を理解し、3つの監査証拠を正確に捉えることで、高いレベルでの内部監査を実施することができ、継続的改善を加速させています。

2021年 内部監査結果



2021年10月25日～2021年11月5日の期間で内部監査を実施いたしました。内部監査員の確かな目で見ること、不適合含む、53件の課題を発見することができました。

53件すべて解決済で、新人教育や業務手順書の管理など、新たな課題が明確になり、来期に向けての取組みを開始しています。

今後も社内改善の目を養い、内部監査の質を高めます。

